

持続的生産強化対策事業のうち国際水準GAP普及推進交付金の事業評価票(令和2年度)

事業実施主体	区分	目標値			事業の成果	国による評価
		目標値	実績	達成度		
茨城県	I GAP指導活動の推進(GAP指導農業者数)	430名	436名	101%	県内12地域農業改良普及センターのGAP指導員による現地指導により、指導農業者数は目標値を上回ることができた。コロナウイルスの影響による活動自粛のため、従来通りの集合研修が難しい状況であったが、オンラインでの研修会開催や三密を避けた少人数への直接指導等により、感染者なく目標値を達成できた。	成果目標を達成した。
	II GAP認証の取得拡大(GAP認証取得(学校)経営体数)	2経営体	2経営体	100%	農業教育機関のGLOBALG.A.P及びASIAGAPについても、計画通りに更新を行うことができた。(I)と同様に感染対策に配慮しながら、GAPの推進を行うことができた。	
栃木県	I GAP指導活動の推進(GAP指導農業者数)	1648名	1889名	115%	農業革新支援1専門員及び各農業振興事務所の普及指導員により、1,889名の農業者に国際水準GAPの指導が出来た。	成果目標を達成した。
	II GAP認証の取得拡大(GAP認証取得(学校)経営体数)	6経営体	6経営体	100%	6農業教育機関のGAP認証取得により、学生へGAPの理解向上や重要性について教育することができた。本交付金の活用により、県内農業者や農業教育機関への国際水準GAPの指導ができ、GAPの推進に効果があった。	
群馬県	I GAP指導活動の推進(GAP指導農業者数)	9名	9名	100%	・GAP指導員による指導を受け、GAPの実践・改善を始めた経営体は、目標値である9経営体を達成し、うち3経営体は新規認証取得をした。 ・GAP指導農業者数の育成については、GAPに精通した指導員が重点的に生産者を指導したことから、目標達成の成果を上げた。	成果目標を達成した。
	II GAP認証の取得拡大(GAP認証取得(学校)経営体数)	1経営体	1経営体	100%	・本事業を活用したGAP認証取得支援は、農業高校1校のASIAGAP維持審査を支援したことから、目標値である1経営体の認証取得支援を達成した。 ・GAP認証の維持審査を行った農業高校については、認証の維持により、将来の担い手である学生をはじめとしたGAP手法の定着に繋がっていることから、地域農業への波及効果は高い。	
埼玉県	I GAP指導活動の推進(GAP指導農業者数)	100名	129名	129%	県職員(普及指導員)等に、県主催のGAP指導員育成のための研修会やJGAP指導員研修等、民間企業主催の研修会を受講させ、指導員を育成するとともに、主に農業者を対象としたGAPに関する研修会の開催や直接的な訪問指導などにより、農業者に対するGAP指導活動を推進した。 GAP指導活動の推進については、目標値を上回る129人の農業者を指導し、目標を達成できた。	成果目標を達成した。
	II GAP認証の取得拡大(GAP認証取得(学校)経営体数)	2経営体	2経営体	100%	GAP認証を新規取得及び更新しようとする農業教育機関(農業高校)に対し、審査費用の一部を補填し、認証取得を支援することができた。 GAP認証の取得等支援については、農業教育機関でのGLOBALG.A.P.新規取得1校、更新1校を支援し、目標値を達成できた。	
千葉県	I GAP指導活動の推進(GAP指導農業者数)	53名	40名	75%	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため、集合研修や巡回指導を自粛する動きがあったこと、千葉県では12月以降、高病原性鳥インフルエンザの発生に伴う防疫作業の必要があったことから、GAP指導活動の推進が縮小され、GAP指導農業者数に関する目標達成に至らなかった。GAPの取組の普及拡大に向けて、県域及び地域単位でGAP研修会を開催し、農業者へのGAPの理解促進を図るとともに、引続き、GAP指導を行う。地域単位での集合研修と個別の巡回指導を組み合わせ、効率的なGAP指導を行い、目標達成を目指す。	GAP指導農業者数については、令和2年度の新型コロナウイルス感染症拡大の影響による研修会等の自粛に加え、千葉県では12月以降、高病原性鳥インフルエンザの発生に伴う防疫作業に人員を取られ、また業務としてもGAP推進に係る活動が縮小されたため、目標を未達成となった。GAP認証の取得等経営体数については、目標を達成している。このため、GAP指導農業者数について、改善計画の作成・提出を求め、計画終了後に再評価を実施する。
	II GAP認証の取得拡大(GAP認証取得(学校)経営体数)	2経営体	2経営体	100%	GAP認証の取得等経営体数のうち1校は、千葉県立農業大学校で令和2年度交付金を活用してGLOBAL G.A.P.の維持審査を行った。なお審査当日は、GAP指導者等への理解促進を目的として、県担当者や県内農業系教育機関を参集して公開審査を実施した。他の1校は、令和元年度より「あばGAP」に取組んでいた県立高等学校でJGAP認証を新規取得した。県立高等学校については、認証に向けたGAP指導や審査への立会いを行った。	
神奈川県	I GAP指導活動の推進(GAP指導農業者数)	86名	210名	244%	GAP推進会議及びGAP研修会をJA神奈川県中央会と共催で開催して指導体制の強化を図り、各地域の農協部会組織等でGAPの取組を推進したところ、GAP指導農業者数が210名となった。	成果目標を達成した。
	II GAP認証の取得拡大(GAP認証取得(学校)経営体数)	1経営体	1経営体	100%	1経営体のGAP認証の取得を支援し、かながわ農業アカデミーがJGAP認証を更新した。 これまでGAP推進会議、GAP研修会、GAP指導員育成研修を通じてGAP指導体制の強化を続けてきており、農業者への指導がスムーズに行われるようになり、目標よりも多くの農業者にGAP指導を行うことができた。 GAP認証の新規取得経営体数は、かながわ農業アカデミーがJGAP認証を更新したことで目標の1件を達成した。さらに、GAP現地研修会において外部専門家による指導を行った結果、農業者のGAP認証取得への意欲が高まり、令和3年度及び令和4年度に認証取得予定の農業者も出てきており、今後、認証取得経営体数の増加が見込まれる。	
山梨県	I GAP指導活動の推進(GAP指導農業者数)	100名	100名	100%	・GAP推進委員会を開催し、GAPの推進方法等について協議し、関係機関と連携してGAPの推進を図った。 ・国際水準GAPを志向する農業者を対象に、GAPフォーラムを開催し、GAP手法の取組意義や実技研修を行うことで、GAPに対する理解の向上や導入に向けた取組を支援した。 ・GAPに取り組む県普及指導員が国際水準GAPガイドライン研修を受講することで、農業者等の国際水準GAPの取得に向けた指導・支援体制を確立し、GAPの実施を志向している農業者等へ指導を実施し、目標値を達成した。	成果目標を達成した。
	II GAP認証の取得拡大(GAP認証取得(学校)経営体数)	3経営体	3経営体	100%	・教育機関に対し、国際水準GAP認証の維持・更新・新規取得に係る費用を補助することで、国際水準GAPの導入推進を支援した。 ・国際水準GAPの認証取得・維持・更新を志向する教育機関に推進及び指導に取り組み、目標値を達成した。	
長野県	I GAP指導活動の推進(GAP指導農業者数)	156名	248名	159%	目標達成できた。	成果目標を達成した。
	II GAP認証の取得拡大(GAP認証取得(学校)経営体数)	2経営体	2経営体	100%	当初農業教育機関2校が本交付金を活用する予定であったが、うち1校は交付金を活用せず、同窓会からの意向により同窓会費による自己負担で審査諸費用を支出し認証取得を果たした。 令和3年2月22日付けの変更交付申請により、認証取得経費を1校分のみとする減額変更しており、本来であれば、目標値の下方修正を行うべきであったが、1校は独自予算で認証取得したため、目標値は達成していると考ええる。	
静岡県	I GAP指導活動の推進(GAP指導農業者数)	121名	190名	157%	新型コロナウイルス感染症の影響で、移動制限がわかり、十分な指導を行うことができなかったため、GAP認証の取得及び準備を行っている農業者数は190名となった。令和3年2月17日付けの減額変更交付申請により「I GAP指導活動の推進」は予算規模を13%に縮小しており、その金額に相当するGAP指導者数は121名で、実績の190名はそれを上回っていることから、目標は達成していると考ええる。	成果目標を達成した。
	II GAP認証の取得拡大(GAP認証取得(学校)経営体数)	3経営体	3経営体	100%	県内農業教育機関では、5機関を目標に掲げていたものの、新型コロナウイルス感染症の影響で、登校制限や移動制限がわかり、GAPに関する十分な指導を行うことができなかった。このため、新規の認証取得機関のための準備が間に合わず認証取得を断念、よって、新規認証取得機関の支援ができず、実績は認証維持の3機関のみとなった。 なお、認証取得を断念した2校分の審査費用は交付されておらず、最終的に交付された予算に相当する目標は達成していると考ええる。	